

人と社会と未来をつなぐ



TRANSPORT!
COMMUNICATION
SAGAWA

SGホールディングスグループ

CSRレポート

Corporate Social Responsibility Report 2011

「人と社会と未来をつなぐ」メッセージ／会社概要／編集方針	01
Top Message	02
東日本大震災における災害対策・救援・再開活動について	04
SGホールディングスグループ 経営ビジョンと中期経営計画	06
事業の取り組み	
SGホールディングスグループ 事業体制と事業概要	08
特集 ステークホルダーとのつながりを大切に –「お客さまの期待にこたえる私たちの仕事」–	
特集① デリバリー事業・・・人にも環境にもやさしい、きめ細かなサービス提供／ 「佐川急便・小規模店舗展開」	12
特集② ロジスティクス事業・・・アジアの未来を見すえた、グローバルなワンストップ・ ロジスティクス／「佐川グローバルロジスティクス・海外展開」	16
特集③ その他事業・・・介護される方、介護する方、すべての方の笑顔のために／ 「佐川アドバンス・介護旅行（外出支援）サービス」	19
ビジョンとCSR	
SGホールディングスグループの理念と指針	22
SGホールディングスグループのCSRマネジメント体制	24
安全への取り組み	
安全への取り組みハイライト	26
Close up① 「全国トラックドライバー・コンテスト」女性部門で7年連続優勝	28
Close up② 夜間走行の幹線輸送トラックを対象に「佐川急便幹線輸送安全パトロール」を実施	29
Close up③ 国土交通省が開催する「航空保安セミナー」に協力	29
環境への取り組み	
環境への取り組みハイライト	30
Close up① 「輸送にかかるCO ₂ の見える化」で物流環境大賞、エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞を受賞	32
Close up② 第1回いきものにぎわい企業活動コンテスト審査委員特別賞を受賞	33
Close up③ CO ₂ の削減を目指した新型車載ナビゲーションの導入	33
社会とのかかわり	
社会とのかかわりハイライト	34
Close up 4つの財団法人による活動	36

人と社会と未来をつなぐ

TRANSPORT!
COMMUNICATION
SAGAWA

大切な人と、つながっている。
今日という日が、未来とつながっている。

そんな確かな毎日をお客さま一人ひとり、ともに働くすべての従業員、ビジネスパートナーの皆さま、地域住民、そして世界中の人々にお届けする。

それが、SGホールディングスグループの使命。

私たちは、ステークホルダーの皆さまとともに、人と社会と未来をつないでいきます。

「キャッチコピー・表紙について」

現代社会に不可欠な「物流」というインフラを事業の中心に、人と人、人と社会をつなぎ、豊かな未来を創造していきたい。そんなSGホールディングスグループの強い想いを、「人と社会と未来をつなぐ」というキャッチコピーに込めました。

表紙は、SGホールディングスグループが幅広い業種業態の顧客企業に対して柔軟に対応し、「人と社会と未来をつなぐ」イメージを、地球と人、社会のシルエットで表現しました。

会社概要

SGホールディングス株式会社は、佐川急便株式会社を中核とするグループの純粋持株会社であり、グループ全体の「経営戦略策定・管理機能」を有し、各事業会社は、「業務執行機能」に特化しています。

この経営体制により、日々変化する社会からの要請に対し、意思決定のスピードを高めると同時に、グループの総合力を発揮しています。

商号 SGホールディングス株式会社
(SG HOLDINGS CO., LTD.)

設立日 2006(平成18)年3月21日

事業内容 グループ経営戦略策定・管理並びにそれらに付帯する業務

所在地 京都市南区上鳥羽角田町68番地

代表取締役会長兼社長 栗和田 榮一

資本金 113億8,300万円

編集方針

- ・ステークホルダーとのつながりや対話を重視する姿勢をより明確に打ち出し、楽しく読んでいただける報告書を目指しました。また、今回の報告書の企画にあたり、冊子版(重要テーマの報告)とWebサイト(詳細報告)の役割を明確にしました。
- ・多くのステークホルダーにお読みいただけるよう、カラーユニバーサルデザイン*で編集しています。また、わかりやすい表現を心がけ、簡潔・明瞭に説明しています。
- ・環境省の「環境報告ガイドライン2007」と「サステナビリティ レポートガイドライン2006」(GRI)を参考にしています。
- ・実績データは2010年度のものを集計しています。(活動内容については一部2011年度の内容も含みます)
- ・取り組みの状況により、年間実績数値で報告できないものは対象期間を明示しています。

報告対象期間 2010年3月21日～2011年3月20日

報告対象組織 佐川急便の活動実績を中心に、SGホールディングスグループ事業会社と財団法人の活動を掲載しています。

その他情報 SGホールディングスWebサイトでは、より詳細な報告がご覧になれます。また本報告書もダウンロードできます。
提供手段 <http://www.sg-hldgs.co.jp/csr/report/>

*カラーユニバーサルデザイン:色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの方に見やすいように配慮されたデザインです。



さまざまな期待に的確にこたえる 「ステークホルダー経営」で、 より社会に必要とされるグループを目指します。

SGホールディングスグループは、産業や生活の重要なインフラのひとつである「物流」をコア事業としています。2011年3月11日に発生した東日本大震災によって、私たちは、物流が日頃から果たしている役割と、それを維持する社会的責任の大きさを改めて実感しました。

私たちのグループがまず果たすべき社会的責任は、円滑な物流を維持するよう日々の事業活動に真摯しんしに取り組むことにあります。

さらには社会の進化と発展に寄与することも重要な役割だと認識し、「ステークホルダー経営」により「人と社会と未来をつなぐ」活動を推進してまいります。

SGホールディングス株式会社
代表取締役会長 兼 社長

栗和田 榮一

社会の重要なインフラである「物流」を担う責任の重さ、事業継続の重要性を再認識

東日本大震災により被災された皆さまには、心からお見舞い申し上げます。お亡くなりになった方々のご冥福をお祈りするとともに、被災地・被災者の皆さまに一日も早く平穏な暮らしが戻り、復興が進むことを願っております。

SGホールディングスグループは、この度の震災において、重要な社会インフラのひとつである「物流」に携わっている責任を果たすべく、地震発生後直ちに災害対策本部を設置し、グループ従業員の安否確認やグループ事業会社の被害状況の情報収集にあたりました。同時に救援物資輸送への協力や、被災地域におけるライフラインの確保に着手して緊急対応に努め、3月17日には一部地域を除き「営業店止めサービス」の受付も再開いたしました。

私自身も宮城県に入り、グループの事業会社が拠点を置く仙台、気仙沼、女川、石巻の状況を確認してまいりました。1995年の阪神・淡路大震災の経験が今も私の記憶に深く刻まれています。地震に加え巨大な津波にも襲われた今回の被害はそれ以上に大きく、長期にわたる支援の必要性を認識いたしました。

このような災害発生時には、「物流」が社会にとっていかに重要であるかを再認識させられました。

事業活動を通じ、お客さまや社会の期待にこたえることで、企業の存在価値が高まる

ただし、物流会社が社会的責任を果たす上で最も重要なのは、平時であれば「空気のような存在」として、円滑な物流を維持することにあると考えています。そして将来にわたって社会から信頼され続けるには、自分たちの事業活動が及ぼす社会への影響を客観的に見極め、ステークホルダーの声に謙虚に耳を傾け、時代の変化にいち早く対応し行動することが大切です。

CSR、つまり企業の社会的責任とは、こうした日々の活動に真摯に取り組むことにほかなりません。企業は、まずは自社の事業を通じてお客さまや地域社会の役に立つことで、初めて存在価値が高まるものだと考えています。

私たちは2007年3月、経営環境が目まぐるしく変化する中であって、お客さまのニーズや社会の動きに柔軟に対応し、自らの成長と社会的責任を果たし

続けるために、グループの10年先を見すえた経営計画を策定しました。そして「グループ各社が、それぞれの事業基盤を築き、新たな価値を創出する」を経営ビジョンに掲げ、ステークホルダーとともに新たな価値を創出することを目指しています。

この経営計画の第一段階にあたる3カ年計画「First Stage Plan」では、グループとしての方向性の確認と共通認識の浸透を目指して「持続的に成長可能な事業基盤の構築」をテーマに自己改革に取り組み、一定の成果をあげることができました。

「ステークホルダー経営」を基盤にした「Second Stage Plan」で、社会的責任を果たし、新たな価値を創出

そして2010年3月からは、「First Stage Plan」の流れを引き継ぐ次の中期経営計画「Second Stage Plan」をスタートさせました。「事業領域の拡充と収益基盤の強化」をテーマに、デリバリー事業の収益基盤を一層強化するとともに、ロジスティクス事業をはじめとする重点事業へ経営資源を集中的に投下し、さらに第2、第3、第4の柱となる事業の確立に取り組みます。

この目標を達成する基盤として、「ステークホルダー経営」を明確に打ち出しました。従業員の雇用を守り、企業を持続的に成長させるためには、お客さまのニーズをいち早くとらえ期待にこたえることが欠かせません。また環境や安全、地域貢献など社会が求める責任を果たせなくては企業の存続はあり得ません。「顧客」「従業員」「地域社会」「株主」そして「取引先」など、どれも疎かにできないものとしてとらえ、あらゆるステークホルダーの期待にこたえるよう事業を推進してまいります。

「Second Stage Plan」初年度は、「First Stage Plan」で届かなかった部分の修正を行いつつ、グループ各社が自立的に目標達成への動きを始めた点に手応えを感じることができました。今後は、より本格的な成果が出始めるものと期待しています。

私たちのグループは単に物を運ぶだけではなく、サービス業でもあります。お客さまを大切に、お客さまの声に耳を傾け、これまで以上にすべてのステークホルダーへの意識を強めていくことが信頼の獲得につながっていくと確信しています。今後も、社会から必要とされる企業体を目指して最善を尽くしていく考えです。

東日本大震災における 災害対策・救援・再開活動について

2011年3月11日(金)に発生した東日本大震災で、被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。SGホールディングスグループでは、震災直後から社会のインフラ維持とライフライン確保のため、さまざまな対応をいたしました。

この難局を乗り越えるための被災者の皆さまへの支援を、関係自治体・組織への支援活動とあわせ、全社を挙げて取り組ませていただいております。

地震発生から3月末までの災害への対応並びに関連情報は以下のとおりです。

3月11日(金)

SGホールディングス本社、佐川急便本社東京本部に 災害対策本部を設置

3月11日の地震発生後、直ちにSGホールディングス本社、佐川急便本社東京本部に災害対策本部を設置。グループ従業員の安否確認、グループ事業会社の被害状況の情報収集を開始しました。



震災直後に設置した災害対策本部

3月12日(土)

佐川急便が日本赤十字社などの要請による 救援物資輸送に協力

佐川急便では、日本赤十字社と締結している救援物資の搬送協定に基づき、3月12日(土)早朝より宮城県に向け、毛布などの救援物資の輸送を順次実施。また内閣府緊急災害対策本部などの行政機関・地方自治体・各トラック協会の要請に基づいた救援物資輸送も順次行っています。



救援物資の輸送

3月13日(日)

200名の応援スタッフが佐川急便東北支社に到着

佐川急便関東支社からドライバー200名、トラック100台の応援スタッフが被災地に向けて出発、同日のうちに全員が佐川急便東北支社(仙台市)に到着しました。まずは被災した東北地方の佐川急便営業店の復旧を図りました。また、ライフラインとなる物流の再開に向けて、早急な対応を開始しました。



佐川急便関東支社からの応援スタッフ200名

3月15日(火)

サービス再開に向けて

佐川急便 社長 平間正一が現状確認および復旧に向けて直接指示をするため、佐川急便東北支社に入り、仙台店従業員や関東からの応援スタッフを激励。本社の災害対策本部に対し、東北地方での「営業店止めサービス」の再開を指示しました。

3月17日(木)~19日(土)

東北地方、茨城県での営業再開

全国から青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県への「営業店止めサービス」を地域限定で再開しました。再開初日の17日(木)には、4万個以上のお荷物が全国各地から東北地方に向けて発送されました。

また、19日(土)には、佐川急便関東支社管内で最も被害が大きかった茨城県全域で集荷・配達を再開しました。



臨時の受付所を設けサービスを再開する(仙台店)

3月22日(火)

従業員が一丸となって完全復旧に向けた取り組みを推進

佐川急便 社長 平間正一が、3月22日(火)早朝より、宮城県の東北支社、福島県の福島店、郡山店に入り、輸配送網の復旧に向けた陣頭指揮を行いました。



救援物資の輸送に出発する従業員の送り出し(山形店)

被災地復興支援、 救援物資輸送の強化に向けて

SGホールディングス 会長兼社長 栗和田榮一が佐川急便東北支社、仙台店、仙台南店、石巻店を訪問。石巻市内では、救援物資の輸送現場に赴き、今後の災害復興支援に向けた救援物資輸送の強化を目指し現地視察を行いました。今後も全社一丸となり、物流という社会インフラ維持とライフライン確保に全力で取り組んでまいります。



輸送現場に携わる従業員への激励(仙台店)

日本赤十字社や宮城県などの要請による 救援物資輸送について

佐川急便が日本赤十字社と締結している救援物資の被災地への搬送協定により、地震発生直後から毛布や食糧などの救援物資輸送を実施しています。また、内閣府緊急災害対策本部などの行政機関・地方自治体・各トラック協会などの要請を受け、救援物資輸送を行っています(3月末:合計トラック134台分配達完了)。

さらに宮城県内の各自治体(石巻市、東松島市、女川町)の要請を受け、被災地における物資集積所から各避難所への救援物資輸送も行いました(救援物資を輸送した避難所数:石巻市173カ所、東松島市80カ所、女川町21カ所)。



物資集積所の作業風景



救援物資の輸送

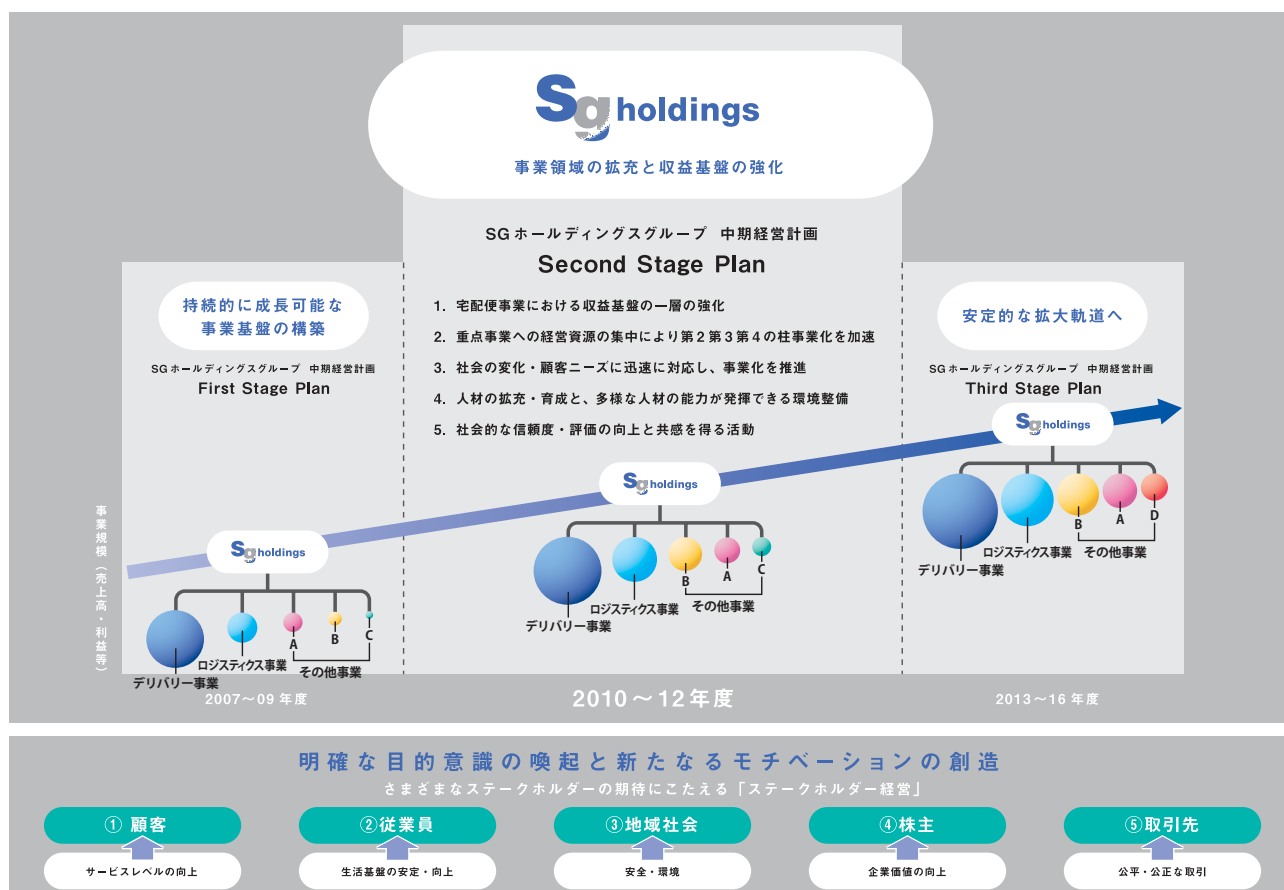
SGホールディングスグループ 経営ビジョンと中期経営計画

経営ビジョン

「グループ各社が、それぞれの事業基盤を築き、新たな価値を創出する」

顧客ニーズの変化、市場環境の変化に迅速に対応し、未来永劫繁栄すべく変革・挑戦し続け、新たな「価値」を創造し、第2、第3、第4の柱となる事業を確立することに取り組みます。

2010～2012年度 中期経営計画「Second Stage Plan」



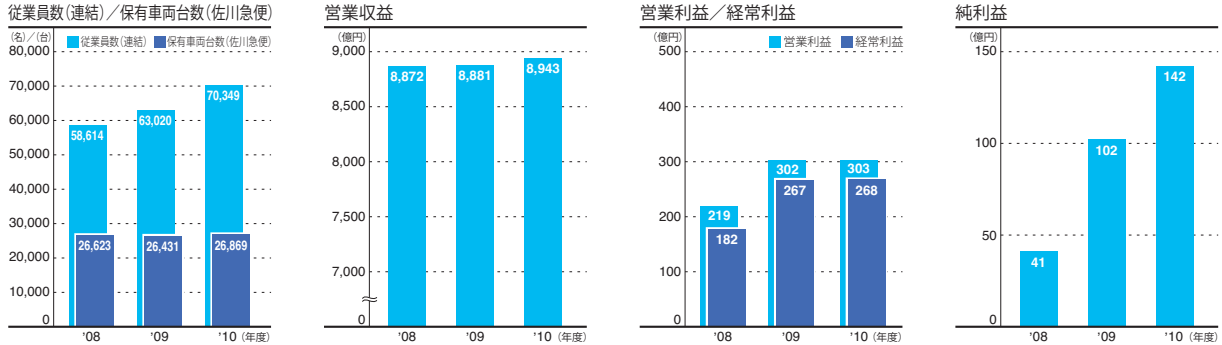
中期経営計画「Second Stage Plan」初年度としての結果

2010年度は、中期経営計画「Second Stage Plan」の初年度として、「事業領域の拡充と収益基盤の強化」を掲げ、宅配便事業の収益基盤強化、重点事業への経営資源集中で第2、第3、第4の柱事業化の加速に向けての取り組みを行いました。しかし、営業収益は前期比100.7%の8,943億円、営業利益は前期比100.2%の303億円となりました。

次年度に向けて、経営スピードのさらなる向上、経営環境の変化に応じた諸課題への対応力の強化、コーポレートガバナンスの一層の強化などを進めて、計画の進捗スピードアップを図っていきます。

SGホールディングスグループ 事業データ (連結)

「デリバリー事業」「ロジスティクス事業」「その他事業」の3つの事業領域でビジネスを展開しています。グループ全体では、営業収益、営業利益ともに前期より微増となりました。

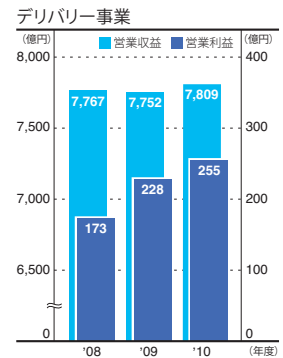


セグメント別 業績概要

デリバリー事業

デリバリー事業の商品取扱数量については、「飛脚宅配便」や代金引換サービス「e-コレクト®」などは好調に推移しました。一方で、「飛脚クール便」や「飛脚メール便」については前期を下回りました。また、拡大する「to C市場（宅配市場）」に強い輸配送インフラを構築するため、地域密着型の小規模店舗展開やそれに対応する7桁の配達店コードの導入および送り状デザインの刷新、集配・店間輸送業務でのカーゴの導入など、事業基盤の構築を進めてきました。

この結果、当事業セグメントの営業収益は7,809億円（前期比100.7%）となりました。

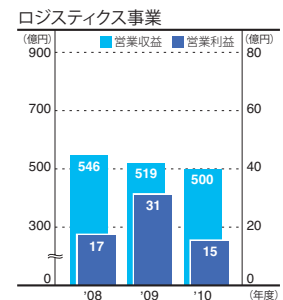


ロジスティクス事業

ロジスティクス事業については、国内外一貫物流などトータルロジスティクスソリューションの提案により事業の拡大を目指して営業展開を行ってきました。また、お客さまとのリレーション強化により、アパレルや化粧品関係などは出荷量が順調に推移しました。さらに、2010年2月にグループ会社となりました佐川ロジスティクスパートナーズ、佐川喜楽客思物流（上海）および佐川喜楽客思物流（青島）につきまちは、グループとのシナジーを図るべく事業を推進してきました。

なお、2010年3月21日付で佐川グローバルロジスティクスの国内航空貨物事業を佐川急便へ事業移管しました。

この結果、当事業セグメントにおける営業収益は500億円（前期比96.3%）となりました。

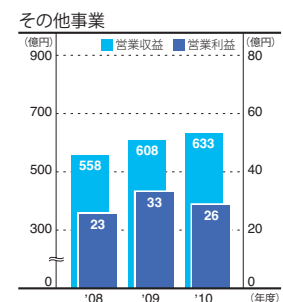


その他事業

自動車事業については、新車販売や特装車両をはじめとする車両整備が好調に推移しました。また、トナミ運輸株式会社車両整備事業部や両備ホールディングス株式会社と整備事業についての業務提携を実施しました。

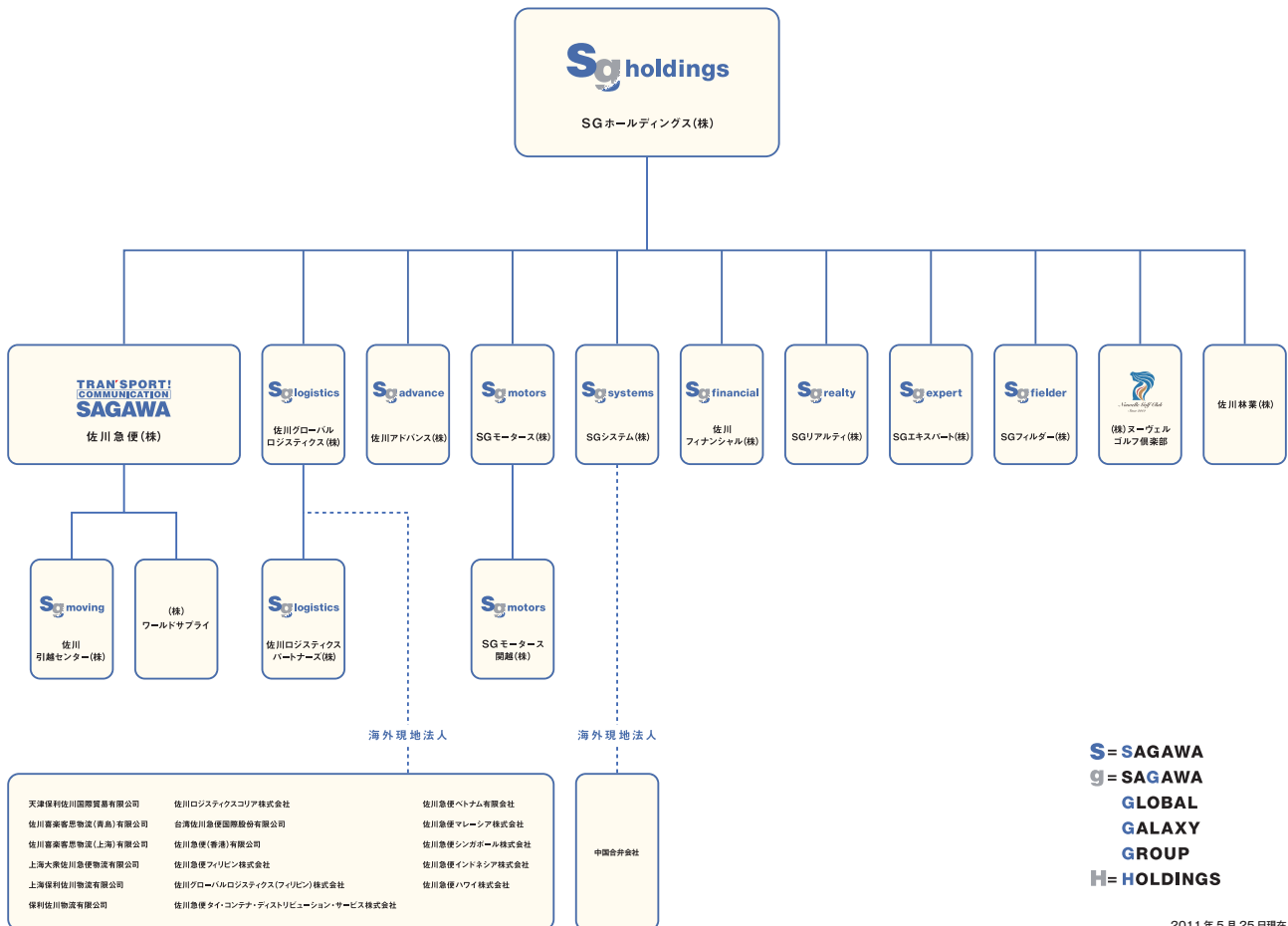
不動産事業については、グループ外からの収益機会拡大に向けた取り組みとして、千葉県柏市と神奈川県横浜市子安にて物流施設の開発に着手しました。

その他各種事業についても、基盤構築に尽力した結果、当事業セグメントの営業収益は633億円（前期比104.2%）となりました。



SGホールディングスグループ 事業体制と事業概要

SGホールディングスグループ 事業体制



主な国内事業会社の事業概要

佐川急便

佐川急便はSGホールディングスグループの中核として、宅配便を中心に幅広くデリバリー事業を展開しています。毎日約450万個を超えるお荷物を取り扱い、一つひとつのお荷物をお客さまの心とともにお届けします。また、グループ各社と連携し、効率的な物流のトータルソリューションを提供しています。



佐川引越センター

個人のお客さまのお引越はもちろん、企業移転にも対応する引越事業。家具や家電の組立・設置までをサポートする設置輸送事業。イベントで使用する機材、什器などの移動、設置、解体をトータルで提供するルート配送事業など、お客さまの多様なニーズに最大限対応する事業を展開しています。



ワールドサプライ

百貨店や大型専門店への納品代行事業を中心に、3PL事業、食品共同配送（築地市場）を事業として展開しています。また、国内外を問わずアパレル商品並びにコスメ商品などの保管から出荷までを担うロジスティクスサービスを、国際セキュリティ規格「TAPA Class-A」の認証取得センターで提供しています。



佐川グローバルロジスティクス

数多くの国内拠点と、中国・東南アジアをはじめとした海外拠点を結び、多様な輸送モードを用いた国際一貫輸送のスキームを構築し、3PL事業、情報システムを組み込んだ物流加工事業などを展開しています。物流コストの削減を図るオーダーメイドのワンストップ・ロジスティクスを提案することで、お客さまの経営をサポートしていきます。



佐川ロジスティクスパートナーズ

国内8カ所で検針・検品から保管・物流加工業務をトータルサポートしています。施設内のソーター処理能力を最大限発揮できるように作業を組み合わせることにより、同一システムで複数荷主・複数納品先への作業が可能。プラットフォーム共有型の事業基盤を有し、ローコストオペレーションの提案を実現しています。



佐川アドバンス

総合サービス企業になるべく、商品開発事業、旅行事業、保険代理店業、施設監理事業を柱として、さまざまな分野のサービスを提供しています。今後は、グループの総合力を生かして通販事業に特に力を注いでいきたいと考えています。社名のADVANCE（前進・進歩）のように、お客さまのあらゆるニーズに対応していきます。



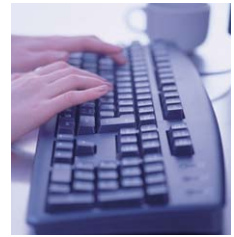
SGモーターズ

日本全国に26カ所の自社整備工場と2カ所のボディ製造工場を展開し、さらに全国の当社協力工場により、きめ細かな整備サポートが可能です。新車販売・中古車販売・特装車両整備など一般企業や個人ユーザーに向けたサービスも展開。また、環境配慮型ボディ「ECO車体」の開発・普及など環境負荷低減にも積極的に取り組んでいます。



SGシステム

情報システムのコンサルティング、構築、運用、保守管理、BPOセンター運営など、「情報のオールインワンカンパニー」としてシステムやソリューションを提供しています。「ITの所有から利用へ」の合言葉のもと、国内外の物流企業に対して、蓄えてきた技術とノウハウを「クラウド・サービス、SaaSサービス」の形で提供を始めています。



佐川フィナンシャル

佐川フィナンシャルは、金融分野においてさまざまな事業を展開しています。主力事業である「e-コレクト@」サービスは、情報照会サービス「e-SAXIS」との連携、クレジットカードやデビットカードによる決済が可能なることを強みとし、着実に成長を続けています。総合「物流金融」会社になるべく、サービスのチャネル整備と質の向上に努めていきます。



SGリアルティ

総合不動産会社としてSGホールディングスグループの不動産を管理運営し、これらの有効活用とともに新規開発などを行っています。テナントに対する賃貸借のあり方や日常管理、修繕計画の最適化を行うPM戦略、バランスシート上の不動産価値の向上、企業価値の向上を目指すCRE戦略の2本柱で、お客さまの事業をサポートしています。



SGエキスパート

SGホールディングスグループの総務や人事、経理などの管理業務を1カ所に集約し、管理機能の高度化、効率化を図るために設立されました。グループの事業会社が本業（戦略策定、事業推進）に集中できる環境を整備し、管理機能の専門知識を高めエキスパート人材の育成とグループ横断的な人材流動化を実現していきます。



SGフィルダー

佐川急便の配送業務を通して蓄積した佐川アドバンスの業務ノウハウを基盤に、流通やメーカーなどの庫内作業業務を有するお客さまに対して、「人材アウトソーシングサービス」を提供します。いきいきとした現場スタッフ（＝フィルダー）とともに、幅広いフィールドで最適なサービスを提供し、社会に対して信頼できるパートナーであり続けます。



海外現地法人



財団法人

公益財団法人佐川留学生奨学財団

1986年、私費留学生への奨学支援事業を通して、東南アジア諸国との友好親善に寄与する目的で設立しました。

留学生が学業に専念できるよう、奨学金による経済面の支援だけでなく精神面でのサポートも行っています。また、採用証書授与式や交流会の開催、文集「アジアの未来」や「研究成果報告集」の発刊、Webサイトの開設など奨学生同士のコミュニケーションの場づくりにも努めています。

<http://www.sagawa-ryugakusei.or.jp/>

公益財団法人佐川がん研究振興財団

1989年、がん医療の向上に寄与することを目的に設立しました。

広く人々の健康増進を目指して、がんの基礎研究と応用治療研究に対する助成支援で医療福祉の向上に貢献し、がんの予防、診断、治療に関する最新情報を一般の方にわかりやすく講演する「がん市民公開講座」を開催して地域社会に対して貢献しています。

<http://www.sagawa-gan.or.jp/>

財団法人佐川国際経済協力会

1985年に佐川急便が中国へ中古トラック200台を寄贈後、1986年に開発途上国を中心とした地域開発の推進に役立つための支援を継続的に行うために設立しました。また、「寄贈されたトラックを末永く使用したい」という要望があり、車両整備技術研修生の受け入れを実施しています。今後も事業を通じて、開発途上国の経済発展並びに国際相互理解の促進に寄与していきたいと考えています。

2007年2月には、長年の中古トラック寄贈に対し、ラオス人民民主共和国より国家勲章を受章しました。

<http://www.sagawa-kokusaikeizai.or.jp/>

公益財団法人佐川美術館

1998年に開館しました平山郁夫館、佐藤忠良館、樂吉左衛門館を三本柱として、それぞれ独立した「館とテーマ」で芸術・文化の振興と発展に寄与しています。

また、企画展と連動したプログラムで、さまざまなジャンルの音楽家を招いてのコンサートやワークショップを開催し、次世代を担う学生や子どもたちなどへの教育普及の場を提供しています。

今後も佐川美術館では、作品の公開や多彩なプログラムを通じ、社会教育施設として地域に密着した交流を続けていきます。

<http://www.sagawa-artmuseum.or.jp/>

外郭団体

SGホールディングスグループ健康保険組合

SGホールディングスグループ企業年金基金

お客さまの
期待にこたえる
私たちの仕事

SGホールディングスグループでは、宅配便や設置配送ビジネスなどの「デリバリー事業」、物流業務の包括的受託サービスや国際貨物を取り扱う「ロジスティクス事業」、自動車整備、不動産、ITなどの「その他事業」の3つのセグメントで事業を展開しています。

そして、2010年3月には「グループ各社が、それぞれの事業基盤を築き、新たな価値を創出する」という経営ビジョンのもと、中期経営計画「Second Stage Plan」をスタートさせました。その基盤となるのが「ステークホルダー経営」です。

特集では、それぞれの事業セグメントで、ステークホルダーの期待にこたえる「ステークホルダー経営」に向けて真摯に取り組んでいる「事業活動(仕事)」をご紹介します。

SGホールディングスグループ 事業活動

フォワーディング

ロジスティクスサービス

デリバリー

サービスセンター

引越し

天然ガス充填スタンド

スーパーレールカーゴ

e-コレクト®

車両整備

ITシステム

不動産管理

通信販売

佐川流通センター (SRC)

大型集約施設

特集① **デリバリー事業** **12ページ>>**
 人にも環境にもやさしい、きめ細かなサービス提供/
 「佐川急便・小規模店舗展開」

特集② **ロジスティクス事業** **16ページ>>**
 アジアの未来を見すえた、グローバルなワンストップ・ロジスティクス/
 「佐川グローバルロジスティクス・海外展開」

特集③ **その他事業** **19ページ>>**
 介護される方、介護する方、すべての方の笑顔のために/
 「佐川アドバンス・介護旅行(外出支援)サービス」



特集 「お客さまの期待にこたえる私たちの仕事」1

人にも環境にもやさしい、 きめ細かなサービス提供

デリバリー事業 佐川急便・小規模店舗展開



「サービスセンター」とは

都市部での渋滞緩和や大気汚染物質の排出量削減、輸送の効率化を目的に、佐川急便ではサービスセンターなどの小規模店舗展開を進めています。サービスセンターは、主に大都市圏の都市部を中心に、トラッ

クなどを使用せず、台車や三輪自転車を用いて、商業地区・オフィス街などでより地域に密着したサービスの提供を行うことを目的とした新しい輸配送の形態です。



お客さまとの関係を強化する 小規模店舗展開

最近の宅配便業界では、通信販売などによる個人宅への配送が増えてきています。さらに単なる荷物の配達にとどまらず、代金引換サービスや時間帯サービスなどの付加価値が求められるようになっています。したがって、これまでの輸配送インフラでは十分な輸送品質やサービスを提供できなくなる可能性もあります。

このような社会背景のもと、これまでは全国を市区町村単位でエリア分けした営業店でカバーしてきたサービス拠点をさらに細分化し、例えば〇〇町1丁目～4丁目までといったエリア内にサービスセンターなどの小規模店舗を設け、より細やかなサービスを提供し、効率的な集配業務を推進する、地域に密着した輸配送インフラの構築を進めています。2009年度に295店だった小規模店舗を、2010年度には467店に拡大し、2011年度には629店に拡充する計画です。



● サービスセンターなどの小規模店舗では、細かい担当エリアの集配をします



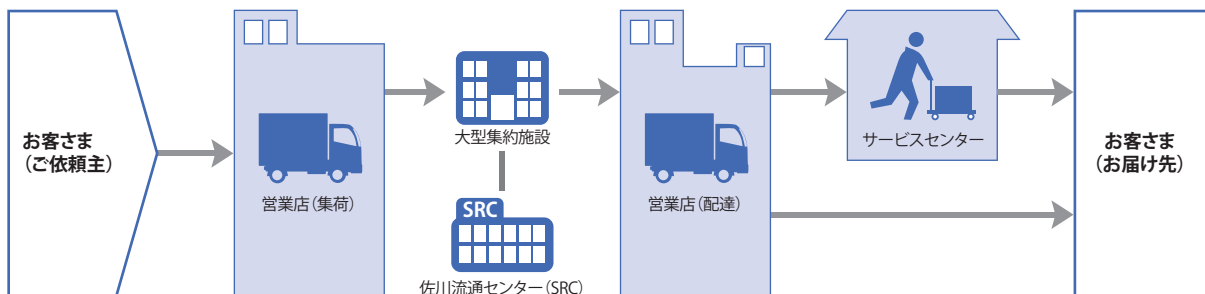
● 三輪自転車での集配のようす

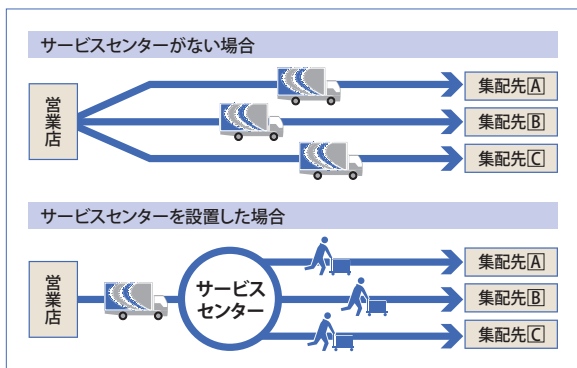
地域に密着した、トラックを使わないサービスセンター

サービスセンターでは、業務の効率化やサービスの品質向上のために、台車や三輪自転車など人力による集荷・配達を行います。1店舗あたりの担当エリアは半径400m程度の範囲をまかっています。また、トラックの駐車場所をさがす時間も不要なので、大幅に移動時間が短縮され、荷物全般のご相談にも応じるなど、お客さまに対してきめ細かい対応をさせていただく時間が増えます。集荷・配達業務などのサービスを提供しながら、お客さまのご要望に対して速やかに対応をするなど、お客さまにより近い拠点として地域に密着したサービスを提供しています。

さらに、自動車運転免許を必要としないため、免許を持たない方でも勤務が可能です。従来よりも雇用の幅が広がり、多様な方が働くことのできる職場としても注目されています。

SGホールディングスグループの物流工程





環境に負荷を与えない配送を実現している、サービスセンターフロー図

環境にもやさしく、社会的課題にも対応する

サービスセンターは、集配業務の地域密着化とともに大気汚染物質の排出量削減などの地球環境保全や、都市部の駐車問題の解消にもつながる、新たな物流サービス拠点ともいえます。

都市部を中心として展開しているサービスセンターでは、1店舗あたりトラック約4~5台に相当する集配エリアを担当しています。従来の集配体制とは異なり、トラックなどの使用を抑えることができるので、トラックから排出されるCO₂やNO_x^{※1}・PM^{※2}などの大気汚染物質の削減にも寄与しています。

また、人力による集荷・配達なので、交通渋滞もなく、交通量の多い地域などでもトラックを一時駐車するための場所も必要としません。このよ

うにサービスセンターの展開は、交通渋滞緩和や駐車場問題の解消など都市環境改善にもつながっています。

※1 Nitrogen Oxide: 窒素酸化物 (光化学スモッグや酸性雨などを引き起こすとされる大気汚染原因物質)

※2 Particulate Matter: 粒子状物質 (ぜんそくや気管支炎を起こすとされる)

きめ細かなサービスで、お客さまのご要望にこたえる

オフィスが立ち並ぶ東京都中央区の「東京駅八重洲口サービスセンター」。2010年8月にオープンしたこのサービスセンターは、東京駅から近く従業員のエコ通勤にも便利な立地で、お客さまとのコミュニケーションを重視した地域密着型のサービスを展開しています。

「お客さまから、このサービスセンターができて、急なご要望にも対応が可能となり、非常に便利になったと言われます。また、近くなったから佐川急便を使ってみようという声も多く聞きます」と語るのはセールスドライバーの升田誠一郎。「配達先まではわずか数分で到着しますので、時間的余裕が増え、お客さまのご要望をお聞きするなど、コミュニケーションの機会も増えます。またトラックを使用しないので、環境に配慮した配送が可能です」

お客さまとの距離が近いサービス拠点として、今後もお客さまの満足度向上を目指します。



● 東京駅八重洲口サービスセンターでの集配のようす

京のおもてなしの心を大切に「サービス拠点」



2010年6月21日(月)、佐川急便創業の地である京都、そして京都の素晴らしさが凝縮された「まち」祇園に「祇園佐川急便」(祇園サービスセンター)を開業しました。

地域に密着した拠点として、スタッフは車夫をイメージしたオリジナル制服を着用。三輪自転車と台車も祇園の景観になじむデザインになっています。また、スタッフには、立ち居振る舞いや言葉遣いに対して日本独自のおもてなしの考え方を取り入れた教育を実施して、従来のサービスセンターとしての機能とともに、祇園を訪れる人々への情報発信拠点としても展開しています。



お客様の声

すぐ近くに
サービスセンターができ、
佐川急便の親しみやすさが
一層高まりました

株式会社ニッコウトラベル

業務部 営業企画部 業務部
佐藤 祐美様 森 由美子様 小森 夏子様

私たちの会社が入居しているビルの裏通りの向かいという、とても近い場所にサービスセンターができたこともあって、佐川急便に荷物をお願いする便利さは以前のトラックでの集配に比べて格段に高まりました。特に急に発送が必要になったときや、発送する書類の内容でトラブルが起きたとき、このサービスセンターができたメリットをすごく感じます。

佐川急便とのお付き合いは私たちが入社する以前からで、お昼過ぎと夕方、1日2回の集荷が日課になっています。それでも急な発送は出るもので、そうした場合にわざわざ電話しなくても自分で持ち込めば済むし、預けた後に発送を止める必要が出たら送り状の控えを持ってセンターに駆け込めば、すぐ対応してもらえるのは本当に助かります。

また、時季によってパンフレットなど大量の書類を一度に発送することがあるのですが、自分たちが手作業で行っている封入作業が間に合わず通常的时间より遅く集荷をお願いせざるを得ない場合も出てきます。そんなときに無理をお願いでき、気軽に受けていただけるのも、お昼休みに会社を出て街なかでサービスセンターの担当の方とすれ違えば自然に挨拶を交わす、“ご近所”のお付き合いが普段からできているからこそだと思います。



<http://www.nikkotravel.co.jp/>

1976年設立。東京、大阪、名古屋に事業所を持ち、グループの従業員数85名。海外への独自ツアーの主催、個人旅行の手配など企画から販売や添乗までを行う海外専門の旅行会社。

ニッコウトラベル様の企画コンセプトは「ありきたりのパッケージツアーでない、顧客満足度の高いゆったりとした旅づくり」です。舞台は、ヨーロッパ中心にクルーズや秘境など多岐にわたり、音楽・芸術などのツアーも数多く取り扱うなど、お客様の立場に合わせた「ゆとりある豊かな旅」を追求されています。

株式会社 ニッコウトラベル

東京都中央区京橋 1-1-1 八重洲ダイビル2階



特集 「お客さまの期待にこたえる私たちの仕事」2

アジアの未来を見すえた、グローバルな ワンストップ・ロジスティクス

ロジスティクス事業 佐川グローバルロジスティクス・海外展開



中国における物流サービスの概要

SGホールディングスグループの中で国際輸送と倉庫・物流拠点の運営を担う佐川グローバルロジスティクスは、2003年に日本の物流会社として初めて中国で宅配便事業をスタートさせるなど、成長著しい中国市場での事業展開にいち早く取り組んできました。さらに近年は、日本で実績を重ねている3PL(3rd Party Logistics)*事業を中国でも展開。産業のグローバル化がますます進む中、中国、台湾、韓国など日本との時差1時間圏内では、お客さまに国境の壁を意識することなくビジネスを展開していただける物流全般のサポートを目指しています。

*企業の流通機能全般を一括して請け負うアウトソーシングサービス



中国で展開している物流施設

- 中国法人12拠点
- 物流センター12カ所
- ▲ エクスプレス・航空貨物センター10カ所

お客さまの中国事業の戦略的パートナーとして、SGホールディングスグループが提供する物流サービス

中日国際宅配便		
中日間海上航空フォワーディング	保税倉庫保管サービス	海外引越しサービス
上海市内宅配サービス	日中e-コマース物流支援	検品・検針・物流加工
3PL 総合物流サービス	物流システム設計開発	物流・貿易コンサルティング

中国におけるワンストップ・ロジスティクスを目指して

佐川グローバルロジスティクスは航空、海上、陸上とすべての輸送モードを揃え、日本と海外との間でドア・ツー・ドアの輸送サービスを提供しています。中でも中国を始めとするアジア地域では、現地法人や有力企業との提携を通じて、より信頼性の高い一貫輸送を実現。中国国内物流については、上海大衆佐川急便物流や業務提携を結んでいる中国郵政の関連会社(中国速遞局)配送網との連携が可能で、まさに日本と同様のワンストップ・サービスの展開を進めています。また韓国でも、総合物流企業の韓進(HANJIN)グループと2011年に提携を結びサービス力の強化を図りました。

そして今、力を注いでいるのが中国での3PL事業の展開です。「世界の工場」だけでなく「巨大な消費市場」としても注目を集める中国。モノの流れが一層活発化する中、多彩な機能を備えた物流拠点を用意して、SGホールディングスグループの総合力を生かしたソリューションで中国へ進出するお客さまの事業発展に貢献します。



●中国物流拠点のようす

日本と同じ高品質な3PL事業を中国でも展開

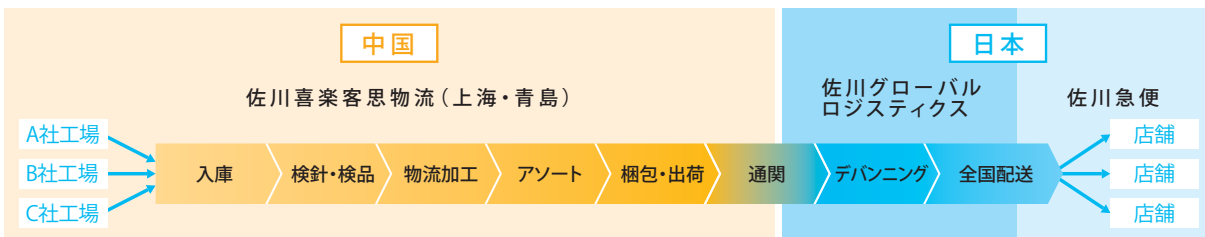
佐川グローバルロジスティクスは、2009年に中国で初めて流通加工型の自社物流拠点を開設したのに続き、中国沿岸部を中心に12カ所の物流拠点を展開しています。2010年には中国現地子会社である佐川喜楽客思(シロックス)物流[上海・青島]が中国政府よりフォワーディング事業と倉庫事業(3PL事業)の許可を取得し、日中間および中国国内物流の一貫したサービス提供が可能となりました。両社は、それぞれ検品・検針、値札付け、梱包などの機能を備え、最大100カ所の配送先に仕分けるソーターなど設備面も充実。複数の工場から送られてきた商品をひとつにパッキングして店舗別に仕分ける、福袋のような複雑な作業も自動で行うことが可能です。

今後ますます拡大する中国・アジア地域での3PL事業について、日本で培った多様なノウハウをトランスプラント(移植)し、日本と同様の高品質できめ細かい物流サービスをより低コストで提供することを目指しており、この2社もその重要拠点としての役割を果たしていきます。



●2003年に中国で宅配便事業をスタートした上海大衆佐川急便物流有限公司

日中間一貫物流フロー図



物流加工(検品・検針・値札発行・店舗別アソート等)に加え、中国各地の工場出荷から日本の仕向港到着までの一貫した物流サービスの提供が可能です。

お客さまのニーズに 合わせサービスを広げる

今後は、日本でのSGホールディングスグループの多様なロジスティクスオペレーションの経験や実績を生かして、お客さまに最適な物流サービスを提供できるよう、より一層の高度化を目指します。モノの流れに直接携わる物流業は、「どこで、何が売れているか」を的確にとらえています。そうした消費市場の動向や、さらには決済機能の提供など、物流に限らずサービスの幅を広げお客さまの事業展開をサポートしていきます。

また消費市場としての成長が続いていることをふまえ、中国における国内物流の拡充も進めていく予定



● アジアでも日本と同じ物流サービスを

です。日本の高度なノウハウやサービスを海外に移した物流拠点を生かし、信頼性が高く効率的な物流を中国国内でも実現します。

今後、物流のグローバル化がさらに進むのは間違いありません。当面は最もニーズの高い中国・東アジア地域でのサービス力強化に努めつつ、ニーズの変化に合わせてASEAN地域などへも3PL事業や域内輸送強化の手を広げていきます。



お客さまの声

物流のサポートだけではなく、
良きパートナーとして
中国での事業展開のノウハウまで
提供していただきました

新日本製薬 株式会社

経営企画本部 取締役本部長 松下 大樹 様


弊社は、「美容と健康」に関する通信販売事業を日本全国に展開しています。新たな事業展開として、中国でも日本と同じくWebを中心とした通信販売を開始しました。その際、会計の仕組みや労務関連法律の違い、日本から輸入する際のライセンス障壁など数多くの課題がありました。また、中国人のメンタリティを知らなければ商品は売れません。日本では物流周りをすべてSGホールディングスグループに委託していましたので、お互いを知り尽くしたパートナーとして、在庫管理からシステム周り、荷受、梱包、配送、返品、棚卸しなどといった通常業務から、中国での業者紹介や顔つなぎ、中国ビジネスのイロハまでサポートしていただきました。今後も良きパートナーとして、海外でも一緒に成長できればと思います。

1992年の創業以来、美と健康をテーマに、医薬品、化粧品、健康食品・ダイエット食品など幅広いアイテムの素材選びからヘルスケアサポートまで、自社グループで一貫した体制を整えられた通信販売事業を展開されています。マーケティングリサーチから商品の企画立案、商品開発、品質管理、広告戦略、受注管理、発送業務、お客さまサポートと、グループ

全体で「One to One health & beauty-care」を実践されています。さらに、中国など海外への展開や直営店の出店、保険業務への進出など事業フィールドの拡大を進められています。

新日本製薬 株式会社

福岡市中央区赤坂 1-14-22 センチュリー赤坂門ビル
<http://corporate.shinnihonseiyaku.co.jp/>



特集 「お客さまの期待にこたえる私たちの仕事」3

介護される方、介護する方、 すべての方の笑顔のために

その他事業 佐川アドバンス・介護旅行(外出支援)サービス



佐川アドバンス・介護旅行サービスの概要

佐川アドバンスは、SGホールディングスグループの中で事業の核となっているデリバリー事業やロジスティクス事業に次ぐ新たな分野を開拓し、第3、第4の柱事業としての基盤構築を図っています。現在は、通信販売や売店・コンビニエンスストアの運営などの「商品開発事業」、損害保険や生命保険を取り扱う「保険事業」、旅行や研修、イベント等を企画・実施する「旅行事業」などを展開しており、それぞれサービスの拡

充に取り組んでいます。

そうした中、2010年10月に旅行事業の新サービスとして、介護が必要な高齢者や障がい者の方たちを対象にした「介護旅行・外出支援サービス」をスタートさせました。「トラベルヘルパー®」と呼ばれる、介護と旅行の双方の専門知識を持つスタッフが同行することで、「旅行・外出は無理」とあきらめていた方たちの希望をかなえます。

▶ トラベルヘルパー®とは

内閣府認証のNPO法人「日本トラベルヘルパー協会」が主催する資格検定試験に合格した、介護技術を身につけた旅行添乗や外出支援の専門家。3級、準2級、2級があり、資格レベルによって家族や地域ボランティアのためのものから、要介護者の外出支援、宿泊を伴う介護旅行への同行まで、対応できる内容が異なります。



高齡化が進む社会に 不可欠なサービス

佐川アドバンスの旅行事業部は、これまでSGホールディングスグループの各社が実施する研修旅行や社員旅行、イベントなどの実施を担って豊富な実績を重ねてきました。近年はそうしたサービスをグループ外へも提供すると同時に、新たなサービスの開発にも力を注いでおり、その中で生まれたのが「介護旅行・外出支援サービス」です。

高齡化が進む日本にあって、一人では自由に動けないご高齢者の介護の充実は喫緊の課題となっています。そして、今後も増え続ける介護が必要な方の生活における質の向上を考えたとき必要になるのが、一人ひとりの事情に合わせたきめ細かいサポートです。旅行に出たい、墓参りがしたい、故郷を訪れたい。そうした気持ちを持つのは自然なことであり、ご本人の希望にこたえたいと願うご家族のためにも、佐川アドバンスは介護旅行・外出支援サービスをスタートさせました。



● 外出中の健康管理や介助だけでなく、スムーズな移動もサポート

外出支援について

ご自宅から近所への買い物、病院・美容院や外食、お墓参り、結婚式・法事・同窓会への参加など、日常的な外出をトラベルヘルパー®がサポートするもので、必要に応じてタクシーや介護車両の手配も行います。



● 旅行の手配や案内だけでなく、介護サービスで旅行をサポート

「トラベルヘルパー®」が 旅行や外出をサポート

一般的な認知度こそ低いものの、介護・看護と旅行添乗員の両方の資格を持ち、さらにNPO法人日本トラベルヘルパー協会の認定も受けた「トラベルヘルパー®(外出支援専門員)」が今、日本全国に700人以上います。佐川アドバンスの介護旅行・外出支援サービスは、お客さまの要望や事情に合わせて完全オーダーメイドで計画を立て、トラベルヘルパー®が同行して旅行や外出を実施するというもの。以前からトラベルヘルパー®の派遣や介護旅行の企画・実施を手がけてきた株式会社エス・ピー・アイ様との提携により、豊富な人材と高いレベルのサービス力でお客さまの期待にこたえます。

介護旅行は、通常の旅行以上に綿密な計画が必要なため、佐川アドバンスはご依頼者と事前の打ち合わせを重ねた上で旅程を組み、最適なトラベルヘルパー®を選定しているほか、自社従業員の資格取得も積極的に進めています。

介護旅行をもつと 社会に広めるために

佐川アドバンスは2010年10月に介護旅行をスタートさせてから、自社のホームページや都内の老人ホームへの訪問などでサービスの紹介に取り組んできました。しかしこの間の活動で「介護旅行」や「トラベルヘルパー®」そのものの認知度を高めることが先決であると認識したため、今後はWeb広告などでの周知活動に努めていきます。

またサービスエリアを広げることにも重要で、現在は東京地区のみの対応となっていますが、名古屋、大阪、福岡へ広げ、さらに札幌、仙台、広島へも拡大していく計画です。



● 介護と旅行の両立をかなえるトラベルヘルパー®

介護旅行・外出支援がこれからの社会に必要なものであるのは間違いありません。そして、ご利用いただいたお客さまに予想を超えて喜ばれていることに自信を得て、佐川アドバンスはこのサービスの普及に一層力を注ぎます。



お客さまの声

故郷への旅が実現し、
母の感激の涙と最高の笑顔
を見ることができました。とても
素晴らしい親孝行になりました

ご利用者 東京都杉並区の特別養護老人ホームにご入居のA様 女性82歳(介護度3)

ご依頼者 A様のご長男(杉並区在住)

母は5年前に脳梗塞で倒れ、地元の八丈島を離れて現在の施設に入居しました。施設ではよくしていただき、毎日の生活には何の問題もありません。しかし時折、故郷を思い出して涙ぐむことがあり、そんな母をどうか八丈島に連れて行き笑顔を見ることができないかと考えていたときに知ったのが「介護旅行」でした。施設の方から紹介されたのですが、日頃から馴染みのある佐川急便と同じグループの旅行会社が行っているため安心して依頼することができ、母と私の家族と妹夫婦、総勢6人での2泊3日の里帰りが実現しました。

亡き父の墓参りをし、母の姉とも再会を果たし、今もある実家では近所の懐かしい方たちにまで集まっていたいただき、母への最高のプレゼントになりました。こうしたサービスを求めている方は少なくないはずで、佐川アドバンスには介護旅行の存在をもっと世の中に広めてくれることを期待しています。



お姉さまたちとの対面では、皆さまが思わず涙を流されました

SGホールディングスグループの理念と指針

SGホールディングスグループの企業活動は、すべての経営者とすべての従業員の倫理観を持った行動によって築き上げられています。業務の適正を確保するための体制づくりと法令遵守体制の構築を図るため「企業理念」「行動憲章」「倫理・行動規範」を制定し、全社で取り組んでいます。

SGホールディングスグループ 企業理念

SGホールディングスグループ 行動憲章

SGホールディングスグループ 倫理・行動規範



SGホールディングスグループ 統一スローガン

SGホールディングスグループ 企業理念

SGホールディングスグループは、佐川急便の創業の原点である「飛脚の精神(こころ)」を継承するとともに、人権の尊重および、法令の遵守をもって公正且つ自由な企業活動を行います。

「飛脚の精神(こころ)」とは
「迅速・確実・丁寧」をモットーに、

- 一. 顧客第一主義に徹する
- 一. 地域社会の発展に奉仕する
- 一. 責任と誠意を使命とする

SGホールディングスグループ 行動憲章

社会の信頼と共感を得るための宣言

SGホールディングスグループは、公正な競争を通じて付加価値を創出し、経済社会の発展を担うとともに、広く社会にとって有用な企業を目指します。そのためSGホールディングスグループのすべての役員及び従業員は、いかなるときでも一致団結して、ステークホルダー経営に徹し、国の内外において、人権を尊重し、関係法令、国際ルール及びその精神を遵守しつつ、持続可能な社会の創造に向けて、次の8原則と経営姿勢に基づき、高い倫理観をもって社会的責任を果たします。

お客さまの期待とともに

1 私たちは、有用で利便性に優れた商品を開発、提供し、サービスレベルの持続的な向上を目指すことにより、満足と信頼を獲得します。

従業員の期待とともに

2 私たちは、従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい職場づくりに努め、ゆとりと豊かさの実現を目指します。

地域社会の期待とともに

3 私たちは、安全と環境への取り組みは当社グループの存在と活動に必須の要件として、主体的に行動します。

4 私たちは、「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行います。

5 私たちは、国際的な事業活動においては、各国・地域の法律の遵守、人権を含む各種の国際規範の尊重はもとより、文化や慣習等、ステークホルダーに配慮した経営を行い、当該国・地域の発展に貢献します。

株主・取引先の期待とともに

6 私たちは、株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを図り、企業情報を積極的かつ公正に開示します。また、個人情報・顧客情報をはじめとする各種情報の保護・管理を徹底します。

7 私たちは、公正、透明、自由な競争並びに適正な取引を行います。また、政治、行政との健全かつ正常な関係を保ちます。

8 私たちは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体とは断固として対決し、関係遮断を徹底します。

経営姿勢

1 私たち経営者は、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、グループ内にその徹底を図るとともに取引先にも実現を促します。また、様々なステークホルダーの期待に応える事業活動を推進し、実効性のある社内体制を確立します。

2 私たち経営者は、本憲章に反するような事態が発生したときには、自らが問題解決にあたる姿勢を内外に明らかにし、原因究明と再発防止に努めるとともに、社会への迅速かつ的確な情報の公開を行います。

SGホールディングスグループ 倫理・行動規範

私たちは、「SGホールディングスグループ行動憲章」を具体的に表現した本倫理・行動規範に則り行動します。

- 1 お客さまの期待とともに、私たちはお互いに発展を続けます。
- 2 従業員の期待とともに、私たちはお互いに明るい職場をつくれます。
- 3 地域社会の期待とともに、私たちはお互いに歩み続けます。
- 4 株主・取引先の期待とともに、私たちはお互いに信頼を築きます。

SGホールディングスグループ 統一スローガン

安全 環境 そしてサービス

すべての品質を世界標準へ。

SGホールディングスグループのCSRマネジメント体制

CSRの基本概念

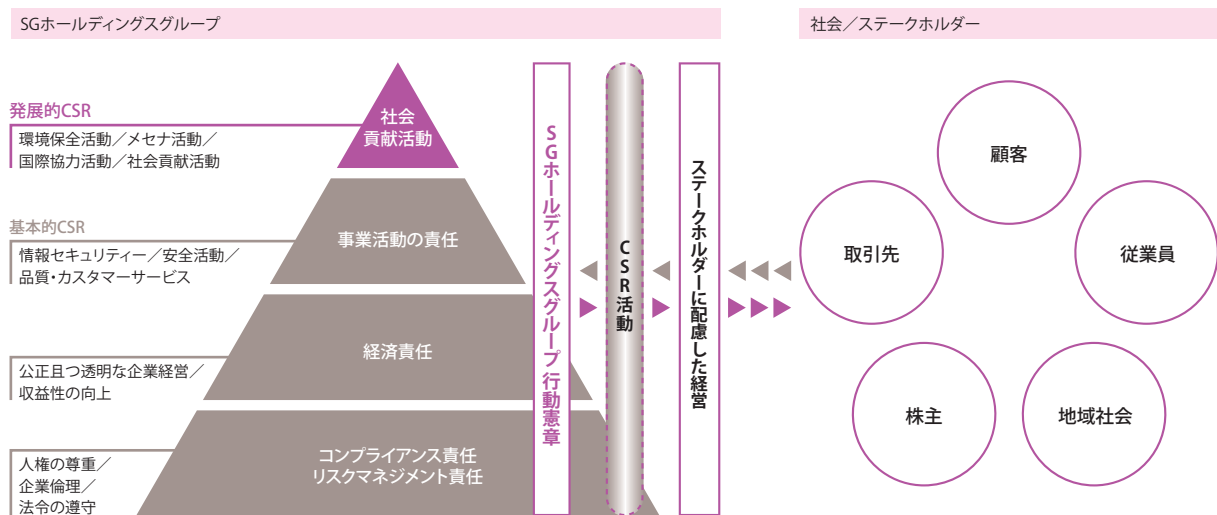
CSRを果たすことは、多様化・高度化する社会からの要請や期待にこたえるための適応力であり、企業の信頼性の確保に努めるものであると考えています。

当グループのCSR概念として「基本的CSR」と「発展的CSR」の2つがあり、企業活動が存続するための「法令遵守」などは必須事項として、基本的CSRととらえて

います。この基本的CSRの上に、顕在化するさまざまな社会からの期待や要請に対応し、貢献していくための発展的CSRがあります。

事業活動と社会の発展が密接に関係していることを意識し、常にこの2つの柱を連動させ、経営することが社会の持続的な発展に寄与するものと考えています。

SGホールディングスグループ CSR基本概念図



CSR推進体制

SGホールディングスグループでは持続可能な社会への貢献に向け、人権の尊重および法令の遵守をもって、公正かつ自由な企業活動を行う旨を企業理念として掲げております。

広く社会に「SGホールディングスグループ行動憲章」を発信し、その実践に向け、具体的には「SGホールディングスグループ倫理・行動規範」をもってグループ全役員・全従業員の行動指針として浸透を図っています。

CSR委員会^{*1}は「SGホールディングスグループ行動憲章」の実践をCSR活動と位置づけ、グループ全体の経営に反映すべく管理体系の構築と、継続的改善活動を推進することを目的としています。

2010年発行のISO26000(社会的責任に関する世界規格、ガイドライン)奨励など、近年におけるCSRをめぐる環境が変化し国内外における関心がますます高まっていることを踏まえ、CSR委員会において「内部統制基本方針^{**2}」「行動憲章」「倫理・行動規範」の総点検を実施し、改定を行いました(2011年度より施行)。

SGホールディングスグループ中期経営計画「Second Stage Plan」(2010~2012年度)のステークホルダー(顧客、従業員、地域社会、株主、取引先)経営へ向け、従業員一人ひとりの意識向上を図り、CSR活動を推進します。

^{*1} CSR委員会はSGホールディングス株式会社の取締役で構成されています。

^{**2} 「内部統制基本方針」は2011年1月21日に改定

内部統制基本方針(抜粋)

社会環境・経営環境の変化等への対応として、さらなるコンプライアンスの強化や、企業が反社会的勢力による被害を防止する明確な指針を示す必要性を認識し、SGホールディングスグループ内部統制基本方針を見直し、必要な改定を行いました。

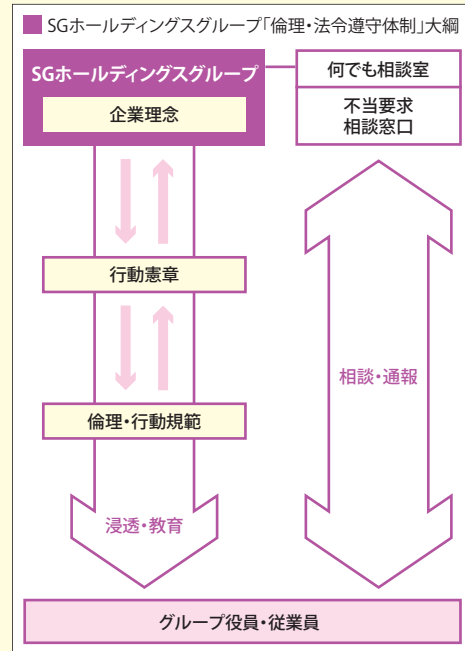
※以下はコンプライアンス・リスクマネジメントにかかわる事項(抜粋)

■ 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ・取締役及び使用人は、法令及び定款を遵守し、倫理観をもって事業活動を行う企業風土を構築するため、次の通り定める。
 - ① CSR委員会を開催し、コンプライアンス体制の継続的改善を推進する
 - ② グループの「行動憲章」に基づき、法令及び定款を遵守し、高い倫理観をもって事業活動に取り組む
 - ③ グループの「倫理・行動規範」を取締役及び使用人の行動指針とする
- ・法令違反などの早期発見と不祥事の未然防止を目的に内部通報制度として、グループの「何でも相談室」を設置する。「内部通報者保護規程」に基づき、公益通報者保護の見地から、情報収集、通報及び相談ができる仕組みの維持・向上を図り、是正、改善の必要があるときには速やかに適切な措置をとる。
- ・社会の秩序や安全を脅かす反社会的勢力を社会から排除していくことが社会共通の重要課題であることを認識し、社会的責任ある企業として、次の通り反社会的勢力に対する基本方針を定めるとともに、この基本方針実現のための体制を整備する。
 - ① 反社会的勢力とは断固として対決し、関係遮断を徹底する
 - ② 反社会的勢力からの不当要求には応じず、裏取引や資金提供は一切行わない
 - ③ 反社会的勢力に対しては、外部専門機関と連携の上、組織的かつ法的に対応し、取締役及び使用人の安全確保を最優先する

■ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ・会社を取り巻く戦略リスク、業務活動リスク、財務報告リスクなどのすべてのビジネスリスクを「リスクマネジメント規程」に基づき、予防的に管理する。
- ・企業経営、事業活動若しくは企業イメージに重大な損失をもたらす、又は社会一般に重大な影響を及ぼす事態が発生した場合は「危機管理規程」及び「防災管理規程」に基づき適切に対応する。
- ・「リスクマネジメント会議」を適時開催し、リスク発生の防止及び最小化並びに損失の低減を図り、リスクマネジメント体制の強化を推進する。



企業倫理の徹底・「コンプライアンス体制の強化」「リスクマネジメント体制の整備」

SGホールディングスでは、コンプライアンスとして「SGホールディングスグループ倫理・行動規範」の遵守体制のマネジメントと、グループ各社の全ての事業を行う上でのリスクの把握・評価と管理を実施するリスクマネジメント体制が内部統制を支える重要な柱であることを認識し、それぞれの制度を運営しています。

2011年1月17日には、佐川急便元従業員が横領事件の被疑者として逮捕されました。これは同社の社内調査にて発覚したもので、2010年11月に刑事告訴をして事件が表面化しました。この事件は元従業員が借金返済のために代金引換サービスで収受した代金を

横領したもので、2010年6月に元従業員を懲戒解雇処分としています。

この事件を厳粛に受け止め金銭の入金状況確認の見直し、並びに従業員のコンプライアンス教育の徹底を図り、再発防止策の浸透に努めていきます。

SGホールディングスグループでは、2010年度には「リスクマネジメントサイト」による各社でのリスク管理体制を構築し、2011年度はグループ全体でのマネジメント体制の整備段階に入りました。同時に、さらなるコンプライアンス体制の強化を図るため、グループ全従業員への教育を実施していきます。

人と環境にやさしい「安全・安心」を追求

「安全」がすべての活動に優先すると考え、全社を挙げてさまざまな取り組みをしています。さらに安全な交通社会実現のための取り組みも積極的に展開しています。

2010年度の実績

①エコ安全ドライブの全社的な推進

「エコ安全ドライブ大作戦」として、ふんわりアクセルによるゆるやかな発進、加速に取り組みました。燃費向上だけでなく、事故の削減にもつながりました。

②ドライブレコーダーを事故の未然防止に有効活用

運転指導は、SD指導員（運転指導員）が添乗指導を中心に実施。さらに5,691台保有しているドライブレコーダーを有効活用して全ドライバーの運転内容を評価、数値化することで指導に役立てています。

今後の目標

真のプロドライバーの育成を目指す

業界のリーダーとして、輸送の安全確保が最も重要であることを認識し、絶対に事故を起さないという強い決意を持って、安全運転ができるプロドライバーの育成を目指します。2011年度は引き続きエコ安全ドライブに取り組み、ドライブレコーダーの有効活用のほか、運転マナーの向上を重点施策として取り組みます。

ドライバーコンテストなどを通じて安全意識の向上と運転にかかわる知識・技術を習得させるなど、安全運行を目指した活動も推進しています。さらに、「さがわきゅうびん交通安全教室」を開催するなど地域の皆さまとの連携を通じた安全性の向上にも努めていきます。

Close up 「全国トラックドライバー・コンテスト」女性部門で7年連続優勝



交通安全を目的とした「第42回全国トラックドライバー・コンテスト」に、SGホールディングスグループから24名が出場しました。女性部門では、宇部店の土屋侑子が優勝するなど計5名が上位入賞しました。

📖 詳細は、28ページで紹介しています。

Close up 夜間走行の幹線輸送トラックを対象に「佐川急便幹線輸送安全パトロール」を実施



安全意識の高揚を図り、交通事故・車両故障を未然に防止し、お客さまに対し安定したサービス品質の提供を行うことを目的としたもの。1994年より毎年春・秋の年2回継続して開催し、安定した輸送サービスの提供や輸送品質の向上に努めています。

📖 詳細は、29ページで紹介しています。

🖥️ 「安全への取り組み」について、下記項目の詳細をWebサイトで報告しています。SGホールディングス

安全性向上へのスキーム

- 安全管理体制
- 研修施設の充実
- ライセンス制度により安全性を向上
- 「全国トラックドライバー・コンテスト」女性部門で7年連続優勝
- 国土交通省が開催する「航空保安セミナー」に協力
- 「第18回 佐川急便ドライバーコンテスト」を開催
- 「フォークリフト運転技能コンテスト」を開催

エコ安全ドライブの取り組み

- エコ安全ドライブの推進



Close up 国土交通省が主催する「航空保安セミナー」に協力



航空貨物に対する保安の取り組みが高く評価され、国土交通省の「航空保安セミナー」の視察先として、佐川急便の羽田空港営業所が選ばれ、海外からの視察団の方が、現場での航空貨物の保安に対する取り組みを見学されました。

📖 詳細は、29ページで紹介しています。

「第18回 佐川急便ドライバーコンテスト」を開催



交通事故防止と運転マナーの向上を目的に、2010年7月、佐川急便研修センターにおいて「第18回佐川急便ドライバーコンテスト」を開催。グループの全国から選抜された58名のドライバーが、日ごろ培った運転技術と環境への配慮を競い合いました。

🖥️ 詳細は、Webサイトでご覧になれます。

「フォークリフト運転技能コンテスト」を開催



佐川グローバルロジスティクスでは、2007年より毎年フォークリフト運転技能コンテストを開催しています。4回目となる2010年10月には総勢25名の全国から選抜されたフォークリフトオペレーターが、日ごろ培った運転技術と安全に対する意識を競い合いました。

🖥️ 詳細は、Webサイトでご覧になれます。

車両の安全確保を目指し、整備ネットワーク拡充に向けた出店強化と機能拡充



SGモータースでは、徹底した整備強化のため、2010年6月に新規拠点として東大阪店を開設しました。今後もサービス品質の向上を目指し、自社工場の拡張並びに新規出店による整備基盤の強化を図ります。

🖥️ 詳細は、Webサイトでご覧になれます。

「ドライブレコーダー」による交通事故の未然防止



ドライバーの運転特性を客観的に把握し、効果的な安全指導を行うために、ドライブレコーダー（安全運転記録装置）を導入し（2011年3月現在5,691台）、交通事故の未然防止や安全運転への意識向上を図っています。

🖥️ 詳細は、Webサイトでご覧になれます。

子どもたちの笑顔を守る「さがわきゅうびん交通安全教室」



幼い命を守るため、一人でも多くの子どもたちが危険を回避できることを願って、子どもたちに交通ルールを守ることの大切さを伝える「さがわきゅうびん交通安全教室」を2003年より毎年実施しています。

🖥️ 詳細は、Webサイトでご覧になれます。

グループ「CSRレポート」サイトをご覧ください。

<http://www.sg-hldgs.co.jp/csr/report/safety/>

車両整備、安全機器の装備による安全への取り組み

- 徹底した車両整備による交通事故防止
- 「ドライブレコーダー」による交通事故の未然防止
- 幹線輸送の安全確保
- 「愛車Day」の取り組み

安全な社会の実現を目指して

- 子どもたちの笑顔を守る「さがわきゅうびん交通安全教室」
- 高齢者を対象にした交通安全教室
- 安全を目指す営業店の取り組み
- 国土交通省が運輸安全マネジメントを高く評価
- 「安全性優良事業所」の認定取得



安全な社会の実現を目指して

2010年度の安全への取り組みをクローズアップ

Close Up ① 「全国トラックドライバー・コンテスト」女性部門で7年連続優勝

2010年10月、茨城県にある自動車安全運転センター安全運転中央研修所において、プロドライバーとして安全の知識・技術を競う、全日本トラック協会主催の「第42回全国トラックドライバー・コンテスト」にSGホールディングスグループから24名が出演、学科競技と実科競技（整備点検・運転技能）により、ほかの運送会社のドライバーと競いました。

女性部門では、7年連続で佐川急便のドライバーが優勝（警察庁長官賞）を飾るなど、計5名が上位入賞しました。また、佐川急便 宇部店には、国土交通大臣賞が贈られました。

佐川急便は、安全運転に対する意識の向上とプロドライバーの育成の一環としてドライバーコンテストに参加しています。

競技内容

学科競技	法規（道路交通法、貨物自動車運送事業法等）、構造機能（車両）及び運転常識（プロドライバーとしての一般的認識事項等）に関するマークシート方式の試験
整備点検競技	車両の安全を確保するため日常点検整備について、点検箇所、点検内容（着眼）などについて採点
運転競技	コース走行、課題走行のほか、運転操作、安全確認などを審査

入賞者一覧/女性部門

順位	氏名	営業店名	得点	備考
1	土屋 侑子	宇部店	968	警察庁長官賞・全日本トラック協会長賞（連名）
2	菊池 由果里	長野店	964	
4	大屋 かな	豊川店	963	
5	藤原 高子	中津店	950	

入賞者/11トン部門

順位	氏名	営業店名	得点	備考
3	西原 裕	九州路線営業所	990	



佐川急便の入賞者表彰の様子



大会一日目の実科競技・整備点検。スピードと正確さが求められる点検作業を確実に一つひとつクリアしていきます

VOICE



運転が苦手な私を、みんなが支えてくれました

佐川急便 宇部店

土屋 侑子

優勝することができたのは、一緒に頑張った仲間たちと、指導してくださった先輩やスタッフの方々のおかげです。これからは、運転することが苦手な私でも優勝できたのだから、誰にでも安全運転ができるんだ、ということを営業店のみんなに伝えていきたいと思います。



日々、業務で鍛えた運転テクニックで、難しいスラロームも楽々と通り抜けていきます



Close Up ② 夜間走行の幹線輸送トラックを対象に「佐川急便幹線輸送安全パトロール」を実施

幹線輸送における安全性の向上を目指し、佐川急便では協力会社を含めたドライバーの安全意識の向上を図るための取り組みを行っています。

「佐川急便幹線輸送安全パトロール」は、中間点呼によるドライバーの心身のリフレッシュと車両の点検強化により、交通事故と車両故障を未然に防止するものです。1994年より春・秋の年2回実施し、2010年度は4月と9月に、主要高速道路のサービスエリア、パーキングエリアを中心に、整備状況などの点検や幹線輸送に携わるドライバーへ安全の呼びかけを行いました。

また、日ごろの感謝の想いを込め環境保全の一環として開催地の清掃活動も行っています。



幹線輸送ドライバーを激励する、安全統括管理者の常務取締役 久森 健二 (右)



安全点検でトラックを誘導するスタッフ

Close Up ③ 国土交通省が主催する「航空保安セミナー」に協力

航空機を安全に利用するために、セキュリティが世界的に強化されています。航空貨物についても同様で、各国が協調して保安レベルの向上に取り組んでいかなければなりません。

このような中、SGホールディングスグループにおける航空貨物の保安に対する取り組みが高く評価され、国土交通省が主催する航空保安セミナーの視察先として、佐川急便羽田空港営業所が選ばれました。

2011年1月、各国より視察団の方々が見学装置などの設備や施設をはじめ、現場における航空貨物の保安に対する取り組みを見学されました。

この視察は、JICA*の制度を利用して来日した開発途上国の航空保安関係者が、日本の優れた航空保安の取り組みを学ぶためのものです。

*JICA:独立行政法人国際協力機構(活動のひとつとして、開発途上国の自立と発展の支援に取り組んでいます)



視察団の方に、設備や施設について説明する佐川急便羽田空港営業所スタッフ



羽田空港営業所の設備や施設を、熱心に視察する参加者の方々

VOICE



「航空貨物の保安」に対する意識を再認識しました

佐川急便 羽田空港営業所
工藤 裕樹

視察団の方には、当社のX線検査装置などの設備や施設をはじめ、現場での航空貨物の保安に対する取り組みを見学していただきました。視察中も熱心に質疑されていて、その真摯な態度には驚きました。このセミナーに協力できたことは、日々の業務が評価されたと従業員一同誇りに思えたとともに、保安に対する意識向上を再認識することができました。今後も、常に見本となるようさらなる航空貨物の保安に対する取り組みの向上に励みたいと思います。

地域社会と連携し、環境保全に向けた活動を推進

SGホールディングスグループは「良き企業市民」として、地球温暖化の防止に向け、社会と自然との共生を目指しています。

2010年度の実績

総合的な環境対策がCO₂排出量の増加抑制につながる

2010年度の佐川急便におけるCO₂総排出量は41.9万トンでした。宅配便取扱個数が前年度に比べ6.1%増加した中で、総合的な環境対策が功を奏し、CO₂総排出量の増加を3.3%に抑えることができました。

今後の目標

環境保全活動が社会全体へ拡大することを目指して

今後は、本業の中での環境対策を継続することはもちろんのこと、佐川急便をはじめとしたSGホールディングスグループを取り巻くステークホルダーの方々と連携し、社会全体での環境保全活動拡大に努めてまいります。

物流事業を中核とする企業体として、排出ガス削減は真剣に取り組まなければなりません。私たちは、輸送の効率化やエコドライブの推進、資源の有効活用など、地球温暖化防止を目指した活動を積極的に推進しています。

また、生物多様性保全や里山再生の取り組みとして、「高尾100年の森」プロジェクトを本格的に実施しています。



「輸送にかかるCO₂の見える化」で物流環境大賞を受賞、エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞を受賞



佐川急便では、輸送にかかるCO₂の見える化の取り組みに対して、「第11回物流環境大賞」を受賞しました。また、この取り組みは、「第7回エコプロダクツ大賞」のエコサービス部門で、優秀賞にあたる「エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞」も受賞しました。

詳細は、32ページで紹介しています。



第1回いきものにぎわい企業活動コンテスト審査委員特別賞を受賞



企業が地域社会や市民団体などと連携し、生物多様性保全や里山再生への取り組みに対して表彰をする、いきものにぎわい企業活動コンテストで、佐川急便の「高尾100年の森」プロジェクトが「審査委員特別賞」を受賞しました。

詳細は、33ページで紹介しています。

「環境への取り組み」について、下記項目の詳細をWebサイトで報告しています。SGホールディングス

環境理念と環境方針

環境理念
環境方針

環境活動推進の体制づくり

環境推進体制
環境会計
環境マネジメントシステム
環境法令への対応

CO₂排出量削減への取り組み

クライメート・セイバーズ・プログラムへの参加
「輸送にかかるCO₂の見える化」で第11回物流環境大賞、第7回エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞を受賞
天然ガストラックの導入
低公害車の積極的な導入
サービスセンターの活用
天然ガス充填スタンドの整備
バイオ燃料の活用
地域との連携事例

輸送の効率化による環境対策

CO₂の削減を目指した新型車載ナビゲーションの導入
大型集約施設による輸送の効率化
佐川流通センターの運営・管理
モーダルシフトの推進



Close up CO₂の削減を目指した
新型車載ナビゲーションの導入



佐川急便では、個人宅への配達効率の向上と環境負荷低減を目的に、SGシステムと株式会社ゼンリンデータコムが共同開発した業界初の宅配専用車載ナビゲーション・システム「Biz-Navi」（ビズナビ）を宅配車両に導入しました。

詳細は、33ページで紹介しています。

クライメート・セイバーズ・プログラム
への参加



碳减排先锋
Defensores do Clima
クライメート・セイバーズ
Climate Savers

2003年に、佐川急便はクライメート・セイバーズ・プログラムに調印し、WWF（世界自然保護基金）と協働したCO₂総排出量削減の取り組みを実施しています。

詳細は、Webサイトでご覧になれます。

環境に優しい集配体制の構築
(低公害車の導入・サービスセンターの活用)



佐川急便では、環境負荷の小さいクリーンな貨物自動車である天然ガストラックを導入しています。ほかにもトラックなどを使用せず、台車や三輪自転車をを用いて人力での集荷・配達をする「サービスセンター」などの小規模店舗を積極的に展開しています。

詳細は、Webサイトでご覧になれます。

自然との共生を目指した活動
(森林保全活動・自然体験学習)



「自然の恵み」や「食物の大切さ」を学ぶことを目的に、グループ従業員・家族、および地域の方々と森林保全活動や自然体験学習を毎年実施し、さまざまな環境啓発活動、持続可能な社会の構築に取り組んでいます。滋賀県守山市で実施した稲作体験では、のべ423名が米作りを体験しました。

詳細は、Webサイトでご覧になれます。

従業員家族で取り組む環境活動
「環境絵日記コンクール」



グループ全従業員が、自ら環境保全活動を積極的に実践することを目的として、2003年度より「環境行動」を制定し、従業員参加型の環境活動を実施しています。3回目となる「環境絵日記コンクール」では、地球環境について従業員と家族がともに考える機会を持つことで、環境保全への意識向上につながりました。

詳細は、Webサイトでご覧になれます。

環境イベント「エコプロダクツ2010」、
「エコライフ・フェア2010」への出展



環境イベントに積極的に出展し、環境意識向上につながる啓発活動を実施しています。国内最大級の環境展示会「エコプロダクツ2010」では、「人と社会と未来をつなぐ」をテーマとして活動を紹介しました。

詳細は、Webサイトでご覧になれます。

グループ「CSRレポート」サイトをご覧ください。 <http://www.sg-hldgs.co.jp/csr/report/environment/>

資源の有効活用

- ECO車体の開発・導入
- 植林事業への協賛
- 太陽光発電システムの導入
- 環境配慮型整備工場

循環型社会を目指した取り組み

- エコユニフォームの採用
- 環境に配慮した商品の購入
- 家電リサイクル回収品の運搬支援
- 車両のリサイクル
- 再生タイヤの導入
- 廃棄物削減に向けた取り組み

環境啓発への取り組み

- SGホールディングスグループ環境行動
- 環境授業の開催
- 環境イベントへの出展

自然との共生を目指した活動

- 森林保全に向けた活動
- 自然体験学習の実施



美しい空、緑豊かな地球を未来につなげるために

2010年度の環境への取り組みをクローズアップ

Close up ① 「輸送にかかるCO₂の見える化」で 物流環境大賞、エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞を受賞

佐川急便では、お客さまよりお預かりしたお荷物の輸送により発生したCO₂排出量を算出し、その数値情報をお客さまに提供するサービスを行っています。この取り組みが評価され、物流における環境対策として優れた功績を残した団体に贈られる「第11回物流環境大賞」(主催:社団法人日本物流団体連合会)にて、「物流環境大賞」を受賞しました。

また、環境負荷の低減に優れた製品・サービスを表彰する「第7回エコプロダクツ大賞」(主催:エコプロダクツ大賞推進協議会)のエコサービス部門で、優秀賞に当たる「エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞」を受賞しました。

2006年に施行された改正省エネ法(輸送に係わる措置)で、輸送事業者のみならず、輸送を委託した荷主側にも輸送エネルギーの削減が義務づけられました。佐川急便はお客さまごとのお荷物の輸送実績とエネルギー消費量を算出し、目安となるCO₂排出量情報の提供を行うことで、荷主企業の商品輸送におけるCO₂排出量の見える化に貢献しています。



「第11回物流環境大賞」の表彰の様子



「第7回エコプロダクツ大賞」の表彰の様子

VOICE



お客さまとともに 環境保全に取り組んでいます

佐川急便 本社 総務部 環境推進課
永田 晴子

2006年の法改正時に、輸送に伴うエネルギーやCO₂排出量に関して、お客さまより多くのお問合せをいただいたことから開始したサービスです。環境に対するお客さまの関心の高さに驚くと同時に、さらなる情報精度の向上に努め、これからもお客さまのご期待におこたえできるようにしていきたいと思ひます。



「第11回物流環境大賞」の表彰状



「第7回エコプロダクツ大賞」の表彰状



Close up ② 第1回いきものにぎわい企業活動コンテスト審査委員特別賞を受賞

企業が地域社会や市民団体などと連携して取り組んでいる、生物多様性保全や里山再生などの持続的な活動を表彰する、「いきものにぎわい企業活動コンテスト」で、佐川急便の「高尾100年の森」プロジェクトが「審査委員特別賞」を受賞しました。

「高尾100年の森」プロジェクトは、東京都八王子市の高尾に所有する山林で、人と自然が共生する里山づくりを目指して、森林再生・保全活動に取り組んでいます。2007年から佐川急便と財団法人水と緑の惑星保全機構が中心となり、地域ボランティアの方々やNPO、教育機関などと協働して、健康な森にするための間伐や下草刈り、また森林研修や自然体験を通じた子どもたちへの環境教育の場として活用いた

ています。このプロジェクトを通して、100年後の自然を守るために、この地域を一緒に創造していく人々の輪が広がることを期待しています。



活動のようす

VOICE



すべての方が癒やされる、
健やかな里山に

財団法人 水と緑の惑星保全機構
柴田 和幸 様

「高尾100年の森」に携わるようになって、はや2年。通常整備はまだまだ少人数での作業で大変ですが、従業員さんとそのご家族参加のボランティア整備を実施するたびに、参加者の楽しそうな表情や、家族での共同作業を見ているとほのぼのとした気分になります。

Close up ③ CO₂の削減を目指した新型車載ナビゲーションの導入

佐川急便では、個人宅への配達効率の向上と環境負荷低減を目的に、SGシステムと株式会社ゼンリンデータコムが共同開発した業界初の宅配専用車載ナビゲーション・システム「Biz-Navi」(ビズナビ)を宅配車両に導入しました。

「Biz-Navi」は、一度に複数力所の目的地を記録して画面上に表示できるため、現在位置と配達先の位置関係を正確に把握し、最適なコースを選択することができ、配達の遅延防止にも効果を発揮します。

同一コース・個数で比較実験を行った結果、「Biz-Navi」を搭載した車両が搭載しない車両に比べ、所

要時間で21%、走行距離で34%短縮し、CO₂排出量も34%削減できるなど、大幅に配達効率が向上し、燃料消費を抑制することが実証されました。



新型車載ナビゲーション

省エネやリサイクルなど、環境にやさしい活動を推進していきます。
SGシステム 総務部 総務課 片上 政男



豊かな社会を目指して、人と人とのつながりを大切に

「物流」という社会インフラは人と人をつなぐ大切なものです。私たちは、「お客さま」「従業員」「地域社会」とのコミュニケーションを深めて、より豊かな社会づくりに貢献していきます。

2010年度の実績

ステークホルダーとともに 持続的な発展への取り組み

お客さま向けのサービスの向上を図るとともに、次世代を担う子どもたちの育成支援を目的とした職場体験学習を引き続き全国で実施したほか、講演活動やスポーツイベントへの協賛などに取り組みました。従業員への働きやすい職場環境づくりとして、ワークライフバランスへの取り組みを強化、女性従業員向け「Working Woman Guide」を立ち上げました。

今後の目標

「ステークホルダー経営」を基盤に、 CSRを強化

「ステークホルダー経営」を基盤に、お客さまのニーズにこたえられる高品質・高付加価値のサービス提供に努めます。また、豊かで健康な生活、安心できる社会の実現に向け、地域社会との共生を目指した取り組みを今後も実施していきます。そして、従業員の能力を存分に発揮できる職場環境づくりに努め、社会変化に柔軟に対応できるCSR体制を強化していきます。

SGホールディングスグループの事業活動には、配送のご依頼をいただくお客さま、従業員、協力企業、地域社会をはじめ、多くのステークホルダーとの信頼関係が不可欠です。

今後も、SGホールディングスグループが社会とともに発展するためには、「私たちが社会に求められている期待や役割とは何か」を常に意識して、人々の意見にも謙虚に耳を傾け、真摯に事業に取り組んでいきます。



4つの財団法人による活動



SGホールディングスグループは「地域社会の発展に奉仕する」という社是を掲げ、交通安全教室や森林保全活動などを通じて社会貢献活動を行ってきました。さらに、社会貢献活動できる企業であり続けるために、物流事業の枠を超えて、20年以上にわたり、外郭財団法人が行う各事業を支援しています。今後も、芸術・文化発展への寄与、がん研究の研究助成支援、海外からの留学生の奨学支援、発展途上国に対する経済協力など幅広い支援活動で社会から受けた恩恵を広く還元していきます。

詳細は、36～37ページで紹介しています。

4つの財団法人

公益財団法人佐川留学生奨学財団
財団法人佐川国際経済協会
公益財団法人佐川がん研究振興財団
公益財団法人佐川美術館

「社会とのかかわり」について、下記項目の詳細をWebサイトで報告しています。SGホールディングス

お客さまに向けて

サービス介助士による引越サポートを開始
3Rに対応したパソコン輸送サービス「飛脚パソコン便」
溶解処理まで行う「飛脚機密文書リサイクル便」
許可取得で「飛脚特定信書便」をスタート
効率化・省資源化に向けた取り組み
グループの特性を生かした「大型家具・家電設置輸送」
スマートフォンで顧客対応サービスを強化
「迅速・確実・丁寧」な電話応対を目指して
品質向上への取り組み

従業員とともに

働きやすい職場環境づくり
充実した人財育成・研修制度
倫理・行動規範教育の実施
オフィシャルコミュニケーションの実施
職域を越えて女性従業員の活躍を支援
ワークライフバランスの取り組み
国内宅配便業界初のハーフパンツ導入
従業員・家族専用ホームページで生活をサポート
メンタルヘルスケアの促進
さらなる向上のための従業員表彰制度
充実した福利厚生
「夏休み家族の職場参観」を実施



サービス介助士による引越サポートを開始



佐川引越センターは、「サービス介助士2級」の資格を取得したスタッフによる引越のサポートを2011年3月より東京地区で開始しました。ご高齢の方や障がいのある方に対しても、引越時にサービス介助士がサポートすることで、安心・安全なサービスを提供することができます。

☞ 詳細は、Webサイトでご覧になれます。

スマートフォンで顧客対応サービスを強化



さらなる「顧客満足度の向上」と「ドライバー業務の簡素化・負荷軽減」を目的として、セルスドライバーが集配業務で使用する携帯端末を刷新しました。今回導入した新型携帯端末は、業界で初めてのバーコードスキャナ付きスマートフォンで、機能性・汎用性・操作性の向上を図っています。

☞ 詳細は、Webサイトでご覧になれます。

「夏休み家族の職場参観」を実施



佐川急便では、従業員の家族を対象に、物流に対する理解向上や勤労観の育成とともに、家庭における親子のコミュニケーション機会の促進を目的として、「家族の職場参観」を、2010年8月に初めて実施しました。

☞ 詳細は、Webサイトでご覧になれます。

「青い羽根募金」で水難事故救済活動を支援



SGホールディングスグループは、2001年より、日本水難救済会の「青い羽根募金」に協賛・啓発活動を行っています。2010年5月には、グループ挙げての長年の取り組みの功労が認められて名誉総裁表彰を受賞しました。

☞ 詳細は、Webサイトでご覧になれます。

乳がん自己触診啓発活動への取り組み



活動を評価していただいた蓮舫大臣、日本対がん協会と佐川急便関係者

佐川急便では、一人でも多くの女性従業員が乳がんの早期発見・早期治療の意識を持ち、定期的な検診につなげることを目的に、公益財団法人佐川がん研究振興財団との協働で、オリジナルの「乳がん自己触診啓発ポスター」を制作し、社内外で掲示、啓発に努めています。

☞ 詳細は、Webサイトでご覧になれます。

ステークホルダー・ダイアログの開催



物流事業者である佐川急便が社会から求められている期待や役割とは何か、また事業活動の中で貢献できることは何か、その要望にこたえられているかなどを知るために「SAGAWAステークホルダー・ダイアログ」を2004年度から毎年開催しています。

☞ 詳細は、Webサイトでご覧になれます。

グループ「CSRレポート」サイトをご覧ください。

<http://www.sg-hldgs.co.jp/csr/report/social/>

社会とともに

ステークホルダー・ダイアログの開催

社会貢献活動

「青い羽根募金」で水難事故救済活動を支援
各種イベントへの協賛
スポーツイベントなどを通じた社会貢献
4つの財団法人による活動



Close Up 4つの財団法人による活動

SGホールディングスグループは「地域社会の発展に奉仕する」という社是を掲げ、これまで、さまざまな社会貢献活動を行ってきました。さらに、社会貢献できる企業であり続けるために、財団活動を通じて「地域との共生」「国際交流」「学術・芸術支援」など幅広い活動で、社会から受けた恩恵を広く還元しています。

公益財団法人佐川留学生奨学財団

2010年度の奨学生（第25期生）16名の夢への第一歩をサポート

全国の国公立大学の学長より推薦を受けてご応募いただいた、東南アジア各国からの私費留学生95名の中から、厳正な審査により16名（学部生7名、大学院生9名）を奨学生として採用しました。

これに伴い、11月5日～7日、「2010年度佐川奨学生採用証書授与式・交流会」を開催しました。11月6日の授与式には、2010年度奨学生16名全員が出席し、奨学生を代表してラオスからの留学生である、ペッカイソンアノンデットさん（広島大学大学院 工学研究科博士後期課程2年）が「将来日本で学んだ知識・経験のすべてを生かし、ラオスの全国交通システムの構築を目標とし母国の基盤整備に貢献したい」と謝辞を述べました。

その後の懇親会では、来賓の方や先輩にあたる第

24期生、財団関係者、SGホールディングスグループ関係者と歓談やゲームを通して交流を深めました。

また、佐川美術館では美術鑑賞のほか、茶室見学や呈茶を受け、5日には京都東ロータリークラブとの国際奉仕フォーラムで、東映太秦映画村で江戸時代のエコ生活などについて学び、7日には友禅染など、日本の伝統文化についても体験学習を行いました。



「2010年度佐川奨学生採用証書授与式・交流会」の風景



財団法人佐川国際経済協力会

2010年度で21回目となる自動車整備を通じた日中交流

当財団は、佐川急便の中古トラック寄贈を契機に、安定して継続的な国際支援事業を行うために設立されました。また、中国より「寄贈されたトラックを末永く使用したい」という声もあり、こうした要望を受けて、日本と中国で「佐川日中友好車両整備技術研修」を実施し、1987年から2010年度までに計185名（日本研修114名、中国北京・上海研修71名）が研修を受けました。

2010年は、佐川急便が日中友好交流の先駆けとして、中古トラックの無償寄贈を始めてから25周年となりました。これを記念して中国・北京市において「日中友好交流25周年」記念式典を開催しました。

今回の記念式典では、中日友好協会の許金平副会長からSGホールディングス会長兼社長の栗和田榮一

（同財団理事）へ「中日友好使者」の称号が授与されました。記念式典に引き続き「車両整備技術研修生交流会」も開催され、研修を修了した研修生65名が出席しました。今後も、支援事業を通じて国際相互理解の促進を図っていきます。



中日友好協会・許金平副会長（左）からSGホールディングス会長兼社長の栗和田榮一へ「中日友好使者」の称号が授与されました



公益財団法人佐川がん研究振興財団

がんで悲しむ人を少なくするため私たちにできること

2010年度の「佐川がん研究助成」対象研究の選考と、第8回「佐川特別研究助成賞・佐川看護特別研究助成賞」の受賞者の選考、授与式を行いました。2010年度の研究助成には、全国の研究機関より総数176件の応募があり、選考委員会による厳正な審査を行い、14件の研究にそれぞれ100万円（総額1,400万円）の研究費が助成されました。

また、同様の選考プロセスを経て「佐川特別研究助成賞」を2名の方に、「佐川看護特別研究助成賞」を2

団体の方に決定して、助成金および栗和田賞として、ブロンズ像佐藤忠良作「希望」（佐川特別研究助成賞受賞者へ贈呈）、ブロンズ像笹戸千津子作「悠」（佐川看護特別研究助成賞受賞者へ贈呈）を授与しました。1989年の設立から本年度までの研究助成件数は359件、総額3億5,200万円になります。

さらに、「がん」の予防、診断、治療に関する最新情報を第一線で活躍の先生方に、市民にわかりやすくご講演いただく、「がん市民公開講座」を毎年開催しています。

佐川がん研究助成

首都大学東京戦略研究センター 准教授 岡田 聖裕 様 ほか13名

佐川特別研究助成賞

京都大学大学院薬学研究科 研究科長・教授 佐治 英郎 様
財団法人癌研究会・理事/癌研究所所長 野田 哲生 様

佐川看護特別研究助成賞

京都大学医学部附属病院がんサポートチーム 代表者:井沢 知子 様
地方独立法人神奈川県立病院機構
神奈川県立がんセンター看護局 代表者:渡邊 真理 様



2010年度授与式

公益財団法人佐川美術館

大自然の中で文化や芸術に触れる喜び

2010年度は、平山郁夫先生、佐藤忠良先生、樂吉左衛門先生の常設展示に加え、竹久夢二展など企画展や地域に密着したイベントなどを行い、100,473名の方にご来館いただきました。

企画展

- 竹久夢二展 一憧れの欧米への旅ー
- 市川里美とバーナデット・ワッツ ヨーロッパ珠玉の絵本原画展
- 脇田和展 一鳥と遊ぶー
- 所蔵作品展・国宝梵鐘展示
- 第2回 こども絵画コンクール 優秀作品展覧会

その他

- 追悼展 平山郁夫 一平和への祈りー
- 佐藤忠良 ブロンズの詩 となりびと
- 吉左衛門X LOUBIGNACの空の下で
- トワイライトコンサート 計3回公演
- さがわきつづみゅーじあむ2010 絵本作家によるワークショップ



こども絵画コンクール 優秀作品展覧会



さがわきつづみゅーじあむ2010

この報告書に関するお問い合わせは下記をお願いいたします。

〒601-8104 京都市南区上鳥羽角田町68番地

SGホールディングス株式会社

CSR担当

TEL 075-671-8600

<http://www.sg-hldgs.co.jp/csr/report/>

タイトル CSRレポート2011

発行日 2011年6月

次回発行予定 2012年6月

印刷 佐川印刷株式会社

本報告書は上記インターネットホームページでもご覧いただくことができます。



●色覚の個人差を問わず見やすいように配慮したデザインをしています。



●森林保全につながるFSC認証紙を使用しています。



●環境対応型インキの植物油インキで印刷しています。



●有機溶媒を含む湿し水を使わない水無し印刷をしています。



みんなで止めよう温暖化

「SGホールディングス」チーム・マイナス6%

